

旭川市広報広聴推進懇談会（令和3年度第2回）会議録

会議の概要	
日時	令和3年12月3日（金） 午後6時30分から午後7時40分まで
場所	旭川市総合庁舎2階 議会棟第1委員会室
出席者 （参加者）	5名 岡田政勝，栗谷川拓巳，塩尻曜子，若林彩，渡辺直行
出席者 （事務局）	6名 （広報広聴課）杉山課長，島主幹 （広報広聴課広報係）阿部，村田，吉野 （広報広聴課広聴係）田代係長
会議の公開・非公開	公開
傍聴者	なし
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 参加者名簿 ・資料2 参加者座席表 ・資料3 広報誌のリニューアルについて ・資料4 市の運用する SNS について

1 開会

（1）参加者確認

（2）資料確認

2 議事

（1）議題1 「進行役選出」

（事務局）

- ・本懇談会の進行役の選出について，事務局では，要綱第4条の規定に基づき，旭川市社会福祉協議会の岡田さんをお願いしたいと考えている。
- ・異議がないため岡田さんを選出する。
- ・これからの議事進行をお願いします。

（進行役）

- ・それでは，議事を進行する。

（2）議題2 「広報誌のリニューアルについて」

（進行役）

- ・議題2 広報誌のリニューアルに関する説明を，事務局から行う。

（事務局）

これまで広報誌の編集業務を委託していた電通北海道旭川支社が旭川から撤退したことから，令和4年度の編集業務については，これまでと違う事業者と契約することになる見込みである。このことについて，皆様から広報誌に対する意見などを聴き，次年度の広報誌の企画・編集の参考としたい。

【表紙のリニューアルについて】

（事務局）

広報誌の「あさひばし」という愛称は、平成18年5月から使用しており、現在の表紙デザインは平成25年5月号から変更していない。そこで、今回の事業者の変更をきっかけに、表紙のリニューアルを検討している。

(進行役)

- ・事務局からの説明等を踏まえて、御意見、疑問点等があればどうぞ。

(参加者)

- ・表紙のデザインは見慣れているし、馴染んでいるため変えなくてよいと思う。。
- ・電通撤退という経緯もあると思うが、市民はその経緯を知らないし、このままでよいのではないか。

(参加者)

- ・字も見やすいし、表紙の写真のテーマも毎回変えてくれているから、表紙についてはこのままでよいと思う。

(参加者)

- ・今のまま大きい写真で続けてほしい。以前、他市を担当していた時に、デザインを重視して写真を小さくしたら、市民から苦情が来たことがあったため、写真は大事だと思った。
- ・なんでこの写真を表紙に選んだのかと思うときがある。ページをめくって、その理由が書いてあると良いと思う。

(参加者)

- ・馴染みのある表紙を変えなくてよいと思う。
- ・写真で決まるため、1年通してテーマがあると面白い。

(参加者)

- ・以前は特集のテーマと合わせた写真だった。

(事務局)

- ・その月の特集に関連した写真にすることもありますが、用意が難しいテーマのときは、その時期の写真を選んでいる。
- ・表紙の説明があっても良いと思う。

(進行役)

- ・表紙の説明はあったほうがよい。
- ・表紙の写真と内容が連携しているとなお良い。
- ・シリーズで追いかけるのもよいと思う。

【広報誌の企画・内容】

(事務局)

毎月、広報誌に掲載する企画を検討する際、季節に合った情報や、読者が求める情報を掲載したいと考えているが、制作側と読者側で求める情報や内容に相違があるのかもしれないと思うことがある。以下の三つについて、御意見を聞かせていただきたい。

- ・現在の広報誌の課題
- ・これまでの広報誌で良かった企画
- ・これからの広報誌に掲載してほしい企画、市政情報など

(参加者)

- ・若い人はそこまで市政情報に興味がないので、動物園の特集などを多めにしたら興味が湧く。

- ・ コメダ珈琲やサイゼリアなど、これまで旭川になかったお店が出店してきた時に、一覧が出ていたら面白い。

(参加者)

- ・ 「旭川の絶景」はみんなが楽しめる企画だと思う。
- ・ 「社協あさひかわ」が広報誌に掲載されるようになり、これまで別々に配布されていたものを一度に読めるので読みやすい。
- ・ 情報を削るのも増やすのも大変だと思う。

(参加者)

- ・ 悪いところはなく、特集も面白いと思う。
- ・ あまり知られていないマニアックな情報があり、職員の思いが見えて面白い。
- ・ 広報系の職員が読者目線で選定したらよいと思う。

(参加者)

- ・ 個別の注文はないが、旭川は2019年にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市になって、これは国内に10か所しかない。北海道では札幌と旭川だけ。
- ・ 旭川がデザイン都市だとわかるように、ロゴマークなどをいつも見えるところに掲載してほしい。
- ・ 旭川でデザインと言えば家具と思われるが、活動の幅が広がってきたため、そのことも周知してほしい。

(事務局)

- ・ デザインについての連載なども面白いと思う。
- ・ 毎月、旭川のデザインや世界のデザインについてコラムを掲載するなどの構想もある。

【ページ数・カラー印刷】

(事務局)

市の財政状況が厳しさを増しており、市全体として事業費の削減を求められている。広報誌の編集業務や印刷業務の委託料は高額で、今はなんとか現状維持できているものの、今後より一層の事業費削減が必要な場合は、広報誌のページ数や印刷色数を見直すことになる。実際、令和元年度には、12か月のうち4か月はページ数を削減した。また、年度を通して、一部のページを青と黒の2色刷りで発行した。

ページ数の削減となれば掲載情報の縮小、印刷色数の変更となれば誌面の見やすさなど、いくつかの課題が挙げられる。現状維持が1番の希望ではあるが、今後の参考として「掲載情報が多すぎるから、ページ数を減らしても問題ない」「掲載情報はこのままで、2色で印刷してはどうか」など、率直な御意見をお聞かせ願いたい。

なお、ページを削減する場合、8ページずつ減らすため、32ページ、24ページ、16ページとなる。

印刷は、全ページ2色刷りにする方法や、令和元年度のように、表紙や特集ページを4色刷りにして、お知らせなどのページを2色刷りにする方法がある。

(参加者)

- ・ 2色刷りだと文字の圧がすごい。
- ・ ページ数の削減か色の削減かのどちらかを選ぶなら、フルカラーでページ数を減らしたほうがよいと思う。
- ・ 情報が増えれば増えるほど、見やすさが重要になると思う。

(参加者)

- ・ 内容を削らなければならないのであれば、市民に事情を説明しなければならない。

- ・ 2色にしたときの経費の差額により、現在の32ページを維持できるのなら、苦肉の策として選ぶことも1つの手段だと思う。
- ・ 掲載している各課で、どこまで削るかということの検討も必要。
- ・ 現状で満足しているの、どこを削るとは提案できない

(参加者)

- ・ お知らせのページに関しては、たくさんの色を使うよりも2色刷りのほうがシンプルで見やすい。
- ・ 広報誌は見た目がごちゃごちゃしていても、情報をたくさん載せたほうがよい。
- ・ 高齢者はデジタルに対応できないため、ページ数の削減よりは、2色刷りにして情報量を保ったほうがよいと思う。
- ・ 言い回しが長いこともあるから、努力次第で削ることはできるはずである。

(参加者)

- ・ 紙は木材の消費の45%ほどを占めていて、家具の約20倍である。
- ・ あと5年~10年経つと高齢者も変わってきて、電子媒体も使えるかもしれない。
- ・ いつまで紙媒体にするのかということ、常に考えておかないとならない。

(進行役)

- ・ 字が小さいという意見はないのか。
- ・ こんなにカラフルにすると見づらい気がする。
- ・ 他の中核市と比べてページ数はどうなのか。
- ・ 掲載しきれない情報があるから、全部を知らせることはできないため、ある程度は落としても仕方ない。
- ・ そう仕向けていかないとデジタル化が進まない。

(事務局)

- ・ 字が小さいという意見はあまり届いていない。
- ・ 札幌市だと、お知らせのページを削減し、テレビのdボタンで見られるように情報を流している。
- ・ デジタル化したほうが、お知らせ等は随時更新することが出来るため優位性が高い。
- ・ 紙媒体だと1か月遅れになってしまう。

(参加者)

- ・ 公民館などで開催する行事を宣伝するとき、デジタルが使用できないと周知することが出来ないため、タブレットなどの設置により、その館での行事の宣伝や、他の施設でどのような行事をしているかを知ることができると良い。
- ・ 市内の施設など何か所かでそれを進めることが出来れば、広報誌だけに頼らなくてよくなる。
- ・ 一気にデジタル化を進めようとするとう困る人が出てくるため、徐々に広げていく必要がある。

(参加者)

- ・ 前回の懇談会で、駅前に電子掲示板が設置されるという話があったが、そこでお知らせすることはできないのか。

(事務局)

- ・ 12月1日から稼働し、市の情報を流しているが、広報誌に掲載するようなお知らせは流していない。
- ・ 先ほど話題にあった、見たい人がそこに行けば見られるという仕掛けについて検討したい。

(参加者)

- ・公民館でのイベントなどは、よその地域から参加する人もいるから、ほかの地域でどんなことをしているか確認できれば、利便性が向上すると思う。

(進行役)

- ・どの部分までの業務が委託なのか。

(事務局)

- ・広報誌の作成について、年間を通して委託している。
- ・特集でいえば、企画をこちらから提案して、委託先が取材や記事を書くことをライターにお願いしている。
- ・全部の作業をお願いしつつも、広報係でも校正などして関わっている。
- ・全て市の情報のため、広報係で収集して、委託先に渡し、広報誌に仕上げている。

(進行役)

- ・特集だと、全部ライターが書いているのか。

(事務局)

- ・今回で言えば、企画の説明の時に、書いてほしい情報を箇条書きにしてライターに渡している。

(進行役)

- ・除雪のページについてはどうなのか。

(事務局)

- ・除雪は毎年掲載しているものであるため、昨年の記事をベースにしている。

(進行役)

- ・以前は除雪については、折り込みだったと思うが。

(事務局)

- ・全庁的に折り込みをやらない方針になっている。

(参加者)

- ・記事をライターが書いていると知らなかったが、その作業が増えると印刷会社が大変になるのか。

(事務局)

- ・書く会社と印刷する会社が違うため、委託も別々にしている。
- ・配送する会社も違うため、また別で委託している。

(3) 議題3 「市の運用する SNS について」

(進行役)

- ・次に、議題3 市の運用する SNS について、事務局から説明する。

(事務局)

- 各 SNS で同じ内容の情報を投稿しているが、ツイッターの閲覧数が最も多く、常時5千件から1万件の閲覧があり、多いときだと10万件から20万件的閲覧がある。
- リツイートと呼ばれるシェア機能で拡散を容易に行うことができる点が、閲覧数の多さにつ

ながっていると考える。

LINE は情報発信だけでなく、アンケート機能等を活用し、情報収集も行っている。ごみ分別に関する Q&A 機能や、住所変更手続きの事前申請機能といった独自の運用をしているが、登録者全員への無料メッセージは月 1 回しかできず、有料化となった場合の対処が課題となる。

旭川市の公式 SNS では、平日は 1 日 2～3 回の投稿、休日においては「新型コロナの発生状況・ワクチン接種率」を投稿している。

主に利用している SNS の種類と時間帯、また、どれぐらいの投稿数だと煩わしくないかを聞きたい。

(進行役)

- ・事務局からの説明等を踏まえて、御意見、疑問点等を伺いたい。

(参加者)

- ・フェイスブック以外は全て使っている。
- ・ツイッターは常時見ている。LINE も友達と繋がっているからよく使う。
- ・7～9 時、18～20 時ぐらいが頻繁に使われている気がする。
- ・朝の通勤時にバスの中でニュースを見たりする。
- ・ツイッターは流し見するから、30 分～60 分ごとに投稿されても気にならない。

(参加者)

- ・全てのアカウントを持っている。
- ・フェイスブックは 40 代以上向けで、若い子はインスタやツイッターを使っている傾向があるため、使い分けが大事だと思う。
- ・同じ投稿内容でも、インスタ・ツイッターはゆるいタイトルにしても良いのではないかと。
- ・お昼休みに御飯を食べながら見る人が多いと思う。
- ・LINE の通知はどのようなときに使うのか気になっている。緊急事態宣言が発令されたときや、コロナの感染拡大があったときだけなのか。
- ・LINE のごみの分別機能は便利でよく使う。

(参加者)

- ・SNS はコミュニケーションのツールとしてはほとんど使っていないし、情報の発信もしない。
- ・市として SNS を使う役割は、必要な情報をタイムリーに発信するためだろうから、同時並行的に多くの情報を発信する必要があると思う。

(進行役)

- ・専ら YouTube しか見ていない。
- ・戦略的にやるのであれば、業者なのか専門家なのかを配置しなければ、職員の片手間では対応しきれない。

(参加者)

- ・LINE でお店のクーポンなどが週 2 回ぐらい来ることがあり、ツイッターと違って直接通知が届くため、うるさく感じる。

(進行役)

- ・先ほど話題にあった、新規開店のお店を広報誌に掲載するのは難しいだろうか。

(事務局)

- ・特定の店舗だけを掲載するのは難しい。

(事務局)

LINEについて追加で説明する。

LINEは料金プランがあり、旭川市では無料プランを利用している。登録者全員にメッセージを送れるのは上限1万5千件という制限があり、それを超過すると一人ごとに2～3円の料金を支払う課金制になる。現在、旭川市のLINEの登録者が16,400人いるため、無料でのメッセージ送信は実質不可能である。仮に15,000人以内だとしても、月に一回しか送信できないという制限もある。

無料で利用できるタイムラインに投稿しているが、通知が届くメッセージとは違い、各自が自分から確認しないとされないシステムのため、配信しても見られる割合が低い。

(事務局)

- ・旭川市のように複数のSNSを使用している自治体は少ない。
- ・拡大路線で全てに手を広げてしまっている。

(参加者)

- ・あれもこれもだと中途半端な感じがする。
- ・どれかに絞って、それに費用をかけてもいいのではないか。

(事務局)

- ・どこかで見直しが必要だと認識している。

(参加者)

- ・毎日、コロナの感染状況のページが更新されているが、クリックしないと感染人数等が表示されない。
- ・みんなが一番気になっている話題なので、最初から画面に表示しておいてほしい。
- ・SNSを定着させるチャンスだと思うので、力を入れてはどうだろうか。

(参加者)

- ・有志の方が感染人数のわかるページを作ってくれているから、そちらしか見ていない。
- ・クリックする一手間が面倒臭い。

(事務局)

- ・土日祝日も定刻に配信する必要があるため、自動配信にしている。
- ・画像を貼り付けるとなると、職員がリアルタイムで作業しなければならないし、忘れてしまうリスクもある。

(4) 議題4 「その他」

(事務局)

- ・これまでの懇談会で意見を頂いていた「旭川市暮らしの便利帳 2021年版」を発行した。
- ・前回発行した2019年版をベースにし、新型コロナウイルスに関する情報などを追加した。
- ・編集作業は10月初旬に完了し、11月末に全戸への配布が完了した。
- ・2年ごとの発行を予定しているため、次の発行は2023年を予定している。
- ・今回の便利帳を見て、何か意見・感想があれば、お聞かせ願いたい。

(参加者)

- ・2年ごとの発行も大変だと思う。

(事務局)

- ・広告費用を基に作成しているため、市からの支出は一切ない。

(参加者)

- ・情報の修正もあるだろうから、そこを上手く更新できる方法があれば

(事務局)

- ・電子書籍版もあるため、そちらは軽微な修正であれば対応して、定期的な情報の更新ができる。

(参加者)

- ・電子書籍で見てくれた人には、クイズに答えてプレゼントが当たるというようなことを進めると、電子書籍の閲覧者数が増えて、冊子を減らせるかもしれない。

(事務局)

- ・冊子を必要としている人としていない人の判断が難しい。

(参加者)

- ・クレジットカードのお知らせとかは、定期的に送られてきて面倒臭いし、発送を止める手続きをするのも面倒臭い。

(事務局)

- ・広報誌は連絡をもらえば配達を止めるように対応している。

(参加者)

- ・電子版を積極的に利用するように周知したほうがよいかもしれない。

(参加者)

- ・電子版を使えばポイントがもらえるとか。

(進行役)

- ・配達する人としていない人がいたら逆に面倒臭いのではないか。

(参加者)

- ・徐々に進めていって、配達不要な人数が逆転したら楽になる。
- ・冊子で欲しい人は、直接取りに行くとか。

(進行役)

- ・会館などに置いて、欲しい人は取りに行ってもらおうと配送費用もかからない。

(事務局)

- ・広報誌の制作費用の中で、配送費用が一番大きい。
- ※この説明は誤りであり、一番大きいのは印刷製本費用である。

(参加者)

- ・人口が減っているけど、世帯数が減らなければ配達する量は変わらない。

(5) 議題5 「令和3年度第3回の議事について」

(進行役)

- ・議題5 令和3年度第3回の議事について、事務局から説明する。

(事務局)

- ・次回の懇談会は2月を予定している。
- ・議事については、改めて内部で検討した上、提示したい。

3 閉会

(進行役)

- ・以上で会議を終了する。

以 上